

ふくしま県人会だより

忘れないみんなの心を

伝えよう

会長 熊坂 成剛



道内県人会の会員のみなさん
お元気で日々をお過ごしでしょう
か。私は猫の額のような狭い畑
で野菜を作っていますが、農業の
大変さを思います。しかし、私の
こんな眩きはたわごとでしかあ
りません。原発事故に伴う放射性
物質による土壌汚染のため農業
が出来ない、作ることできた桃
や林檎、農作物でも風評被害で思
うように売れない、漁業でも放射
能被害で釣れない、売れないとい

第26号
平成24年8月
福島県人会
北海道連合会

った影響が大きく報道されてい
ます。工場が使えない人々、避難
で商売が成り立たなくなってい
る人々などの生活はどうなるの
か、心配の種は尽きません。

私たちは、母なる福島を離れて
北海道にいますが、福島の事を忘
れたことはありません。三・一一
の震災後は、TVで地震情報が流
れると、ハット思つて画面を見つ
めます。大雨情報が流れると、あ
そこの川は大丈夫かなと心配し
ます。しかし、災害の復興状況は
なかなか災害にあわれた人々の
心に届くような状況になつてい
ないように思います。国や政府や
東電は被災者の心情をどのよう
に思っているのかと思います。
私達は、県内で頑張っている人
たちや、子ども達の安全を願つて
お父さんを県内において避難し
ている人達の心を忘れてはいけ
ないのです。

原発の扱いは安全に処理が進
んでいくのでしょうか、人間が安
全に処理できない、究極の放射能
処理もできないものを作ろう・使
おうとすることは誤りではない
のでしょうか。休止原発の再稼働
は、経済活動のためとか市民生活
のためとの理由だけで許される
のか、と考えねばならないことだ
と思います。国民と放射能被災者
の理解と納得を得たうえでなけ
ればならないと思います。

県人会は北海道の地でそれぞ
れ仕事に、地域の諸活動等頑張り
ながら北海道に避難してきた人
たちと共に母県の応援をしまし
よう。
今年、一年前倒しで母県訪問
を実施します。福島の復興を応援
に行きましょう。

道内十の県人会の交流と絆の
強さを持つて、福島を忘れない道
内県人のみんなの心を伝えまし
よう。これが福島県人会北海道連
合会の心なのです。

連合会の活動

第四十回福島県人会北海道連
合会総会が開催されました

連合会総会が、五月二十六(土)
弟子屈町「川湯観光ホテル」で、
村田文雄副知事をはじめ、斎藤勝
利県議会副議長、三上慎吾北海道
釧路総合振興局副局長等を来賓
としてお迎えし、総勢百二十三名
が参加して盛大に開催されまし
た。

総会に先立ち、長年県人会の発
展に寄与された一條木様(稚内)
に知事感謝状が、天野登恵様(浜
中町)はじめ五名の方に連合会長



村田副知事から知事感謝状を受賞する一條氏

感謝状が贈呈されました。

母県の県政報告に続き、別海町県人会の渡辺栄顕さんを議長に選出して議事に入り、本年度の事業計画、収支予算などすべての議案が満場一致で承認され、次回の総会は、旭川県人会が担当することに決まりました。

また、福島県の復興を応援するため、母県訪問を今年実施することとなりました。

総会終了後行われた懇親交流会では、別海町県人会によるアトラクションや各会員自慢のものが披露され、福島県のブランド認証酒を飲みながら、和やかな雰囲気



別海町白石会長の音頭で懇親交流会スタート

気の中、近況や思い出話に花が咲いていました。

最後に、参加者全員による北海盆踊りで絆を深め、来年の再会を誓い合いました。

感謝状受賞者

福島県知事

一條 木 様 (稚内)

連合会長

小山直子 様 (函館)

河原田洋三 様 (旭川)

佐藤登 様 (美幌町)

天野登恵 様 (浜中町)

若林寅一 様 (苫小牧)



参加者全員で北海盆踊り

十一月に母県訪問を

実施します

母県訪問はこれまで三年毎に実施してきましたが、東日本大震災からの復興応援に加え、十一月七日(水)全国うつくしま県人会交流会(全国県人会サミット)が福島市で行われ、全国の県人会の方々と交流できるということから、今年十一月に実施することとなりました。

日程は、太平洋沿岸(主に相馬市)の復興の取り組み、会津の観光応援のため大河ドラマ「八重の桜」ゆかりの施設見学、全国県人会サミット懇親会への参加などです。宿泊は、一日目は福島市内のビジネスホテル、二日目はスパリゾートハワイアンズを予定しています。

なお、参加費は、概ね一人あたり八〜九万円を想定しています。詳しくは、各県人会事務局に御案内しますので確認ください。皆様の参加をお待ちしております。

会員通信

会長就任挨拶と行事参加

札幌福島県人会

会長 田中 四郎

平成二十四年一月開催の札幌福島県人会総会に於いて、前会長の寺脇氏より、後任会長を仰せ付けられました田中四郎と申します。「ふくしま県人会たより」発行に際しまして、各地区福島県人会員の皆様におかれましては、何卒よろしく御指導、御鞭撻の程をお願い申し上げます。

さて、二月上旬には、恒例のさっぽろ雪まつりが開催されました。大通八丁目のHTB大雪像は、会津鶴ヶ城が見事に制作されました。オープン前日の二月五日、制作担当の自衛隊から、HTB放送局に引渡しので式典がありました。私共、札幌県人会役員及び会員も、このオープンングセレモニーに参加を致し、真白い鶴ヶ城に改めて感激を致したのです。

当日は、会津若松市の小学生が、この為に来道し、少年白虎隊の剣舞が雪像ステージで披露されました。寒さで、素足の少年達は、手も足も顔も真っ赤になつて舞うその姿には、我々のみならず、



雪像「会津鶴ヶ城」引渡し式典へ参加



会津白虎剣士会

大勢の見物者達から大喝采を受けたのであります。このオープニ

ングセレモニーの様子はKFB福島放送とHTB北海道テレビの共同制作による一時間番組となり、後日、北海道と福島県とで放映されました。

また、六月の「YOSAKOIソーラン祭り」には会津下郷町の「郷人」が毎年参加しており、市内各ステージで踊りを披露しております。百人近い踊り手の参加です。私共、県人会の役員と会員とで郷人との交流食事をサツポロビール園で行い、親しく交流をさせて頂きました。

さて、今年度は、二月の雪像鶴ヶ城から始まりましたが、来年、平成二十五年のNHK大河ドラマの主人公は、会津藩砲術師範役山本家の娘として生まれた山本八重が、戊辰戦争では砲撃戦に参加し、会津藩の降伏後は、兄・覚馬を頼り京都に移住し、後に新島襄と結婚し新島八重となり、夫・新島襄と共に、現在の同志社大学の開校に力を発揮します。幕末・明治・大正・昭和の時代の変化と共に生きた会津生まれの女性の一生のドラマであります。私は、平成二十二年この山本八重の一

生を書きました女流作家、藤本ひとみ氏の題名、幕末銃姫伝、サブタイトル「京の風、会津の花」(中央公論新社発行)の本を買い求めて一気に読みあさった事を思い出します。中央公論社は本の宣伝文章に「肩に銃・胸には土魂・唇に紅」と書き、本の宣伝をしたのです。私は、来年、維新後百四十五年の年月が過ぎ、我が故郷、福島県の会津が改めて全国的に知れ渡ろうとしている事に、深く胸が躍るものを覚える昨今であります。

今年も「傷心惨目碑前祭」

を実施

函館福島県人会

古山 利勝

当会では明治二年の箱館戦争で亡くなった会津藩士をまつる「傷心惨目(しょうしんざんもく)碑前祭」を毎年実施しているが、今年も去る五月十一日に高龍寺(船見町)境内にある「傷心惨目の碑」の前で実施、二十三名が参列して先人の霊を慰めた。北海道事務所からは川島次長と安部

主査が出席された。

これは、旧幕府軍のための箱館病院分院だった同寺で、明治二年(一八六九)五月十一日、新政府軍が来襲し会津藩士らを殺傷するなど多数の犠牲者を出していることから、当会ではその供養祭を一九八〇年から毎年この日に実施しているものである。

今年には東日本大震災で福島県から避難してきている人にも参加を呼びかけ、参列した一人は「函館は知らない土地だけど、県



人会とのつながりを持つことができてよかった。会津藩士についてもつと知りたくなりました」と感慨深げに語っていた。

終わってからの懇談会では、当会会員でふくしまフレンドでもある郷土史家の近江幸雄さんから来年のNHKの大河ドラマ「八重の桜」の主人公である新島八重について話していただいた。八重の夫の新島襄（同志社創立者）は一八六四年（元治元年）、愛国の情と西洋文明を学びたいとの一心から、国禁を犯して函館から脱国してアメリカへ渡った。その渡航記念碑が函館にあり当市とも関係深いことからみんな熱心に聞き入った。（道事務所から提供の「八重の桜」リーフレットも全員に配付）碑前祭の様子は当日夕方のNHKのニュース（道南版）でも報道された。

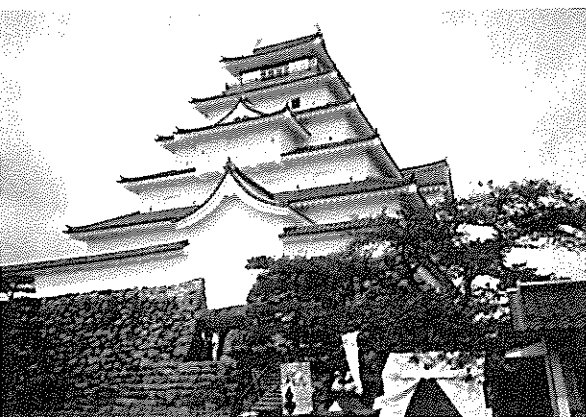
なお、今年には当会の創立五十周年にあたり、記念のタオルを作製して会員ほか避難者や関係先に配付した。九月には第二回目の会員作品展の開催も予定しています。

帰れない家

中標津町 石井芳美

平成二十三年三月十一日の東日本大震災による東京電力福島第一原発事故のため、私の出身地である双葉郡全八町村住民は避難生活を余儀なくされ続けています。みんな住み慣れた我が家に帰りたいがいつになるのか誰も分かりません。「故郷を捨てて移住せざるを得ない」と考える住民が増えているそうです。現に私の姪一家も浪江町請戸で津波で家屋全部が流され、原発の関係もあって福島市内に避難し、最近中古住宅を購入してそこに定住すると決めたようです。大変な事です。

福島県立双葉高校のクラス会出席のため、六月十九日朝、中標津空港発、千歳、仙台経由で郡山市へ、東北新幹線初試乗、二階建ての車輛にびっくり（一部だけだそうです）磐梯熱海温泉へ。卒業以来六十年も継続。（昨年だけ原発事故で中断）校歌斉唱、幹事挨拶、最遠方参加の私が乾杯の音頭、二次会ありで深夜まで続きます。



した。札幌市在住の磯部定成君も出席しました。参加者三十二名中、丁度半数の十六名が原発による避難生活者でした。原発放射能の影響がこんな所にも顕著にできています。このクラスは旧制中学校（五年）から戦後の学制改革で六年間机を並べた男子だけの級友で、八十路になる今でも〇△ちやんと呼んでいる仲間もいます。二十日のクラス会散会后、浪江町から福島市のアパートに避難している兄貴と神奈川県の水戸市の弟の運転で会津方面へ旅行。野口英世記念館、飯盛山の白虎隊自刃地墓参り、東山温泉泊、

翌日は鶴ヶ城、大内宿などを訪問し、福島市の飯坂温泉で痛飲し遊んできました。



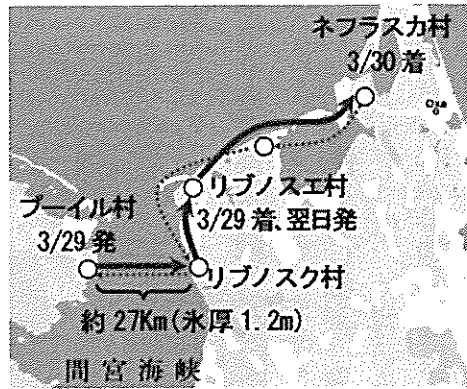
双葉郡の現在の避難区域は近く三区域に区分されるそうです。帰還困難区域と居住制限区域が多く、他は避難指示解除準備区域となるそうです。話によると失業者が増え、今後の生活を考えると自殺者も出ていたとの事でした。暗い話になりましたが、除染作業はあまり当てにならないと悲観的にみている傾向にあるやに聞いています。一刻も早い復旧復興を願わずにはいられません。一日も早く我が家に帰れるよう祈っています。

サハリン

大陸横断挑戦の軌跡

【後編】 阿部 勇

【三月二十九日（水）】



昨夜の余韻も抜けないまま、プーイル村の女性村長さんを表敬訪問しました。村長は、遠来の犬ぞり使いをやさしく迎えてくれましたが、間宮林蔵のことを最近まで知らなかったらしく、ロシアの古い書物に出てくる林蔵はアムール川沿いを旅した日本人としか書かれていないとも言っていました（でも、犬ぞりで来た平成の林蔵だけは忘れないであろう）。

お昼頃サハリンを目指して大陸を後にしました。しばらく進む



とテレビクルーが乱氷の上で旗を振るシーンを撮影したいと言うことでそりを止めて降りると、そこはクラック（裂目）でスプスブと足が埋まり一瞬身体が凍った瞬間でした。

サハリン側の村が見えて来ました。行くときもお世話になったリブノスク村のワロージャさんの家で、昼食をご馳走になり成功を祝ってウオツカで「カンパイ・スパシーバー」。リブノスコ村から更に五十キロ進み夕方六時リブノスク村へ着きました。今日も素晴らしい夕日を見ることができました。犬を止めて夕日をバツ

クに二人で写真を撮り合いました。今夜はセルゲイトウニヤさんの家に泊めてもらいます。セルゲイトウニヤさんのお父さんも昔は沢山の犬ぞりで運送業をやっていたようですが、吹雪の日に出た行ったまま帰ってこなかったそうです。

【三月三十日（木）】

リュービフさんの番屋に到着。しばらく休憩してネフラスカ村へ向かいます。ここまで来ると犬達にも、我が家が判るのか更に元気に走り出します。ネフラスカ村が見えてきましたゴールです。「ゴーン ゴーン ギシ！」ブレーキがかかり犬ぞりが止まり、間宮海峡横断三〇〇キロの旅が終わりです。三月三十日午後四時二十分無事走り抜きました。

リュービフさんと犬達に声をかけ頭を撫ぜながらハーネスを外します。稚内の犬達もこの北カラフトで生まれ、海峡を横断した過酷な生活の中で暮らした犬の血が流れている。大事に残さなければと思い、逞しい犬達を犬舎につなぎ「間宮海峡犬ぞり横断三〇〇キロ」の旅を終えました。

【旅の終わりに】

今回の海峡犬ぞり横断を大成功で終えて、一番心に感じたのは、「勇気」「命」「根性」でした。想像以上に厳しい北サハリンで犬ぞりの上から、遠くの水平線を見ながら思った。「人生は出会い」「一生に一度、今日と言う日は今日しかない」、色々なことを思い人生を振り返ることができた時だと思つてます。

「勇気」を持つて何でも立ち向かう。「命」もしも天候が悪く吹雪で、犬も人も白一色の中に取り残されたらどうだったんだろう。

「根性」やると思つたらやる。やると思つたら愚痴を言わない。良い方に良い方に面白くする旅に。「人生出会い」子供の頃の犬ぞりとの出会い、セルゲールュービフさんとの男の出会い。行く先々の村人や子供達のキラキラとした目の輝き。美しい夕日、満点の星空を見て感じた。「明日またあるのか、来年あるのか解らない」、氷の山や雪と風の彫刻などを思い感じて、一日いちにちを大切にいきることの大切さなど、北サハリンの村の生活は、私の小学校時

